

平成 26 年 度

事 業 計 画 書

収 支 予 算 書

平成 26 年度 事業計画

1. 事業方針

本年、当協会は創立 110 周年を迎える。この節目の年において、本会の目的である我が国科学技術の振興と産業経済の発展に寄与すべく、発明の奨励、青少年の創造性開発育成等の諸事業の更なる充実に努めていく。

また、創立 110 周年の記念事業として平成 25 年度より実施している「戦後日本のイノベーション 100 選」について、選定委員会における審議を踏まえ、第 1 回の発表を行う。

加えて、次代を担う子供たちの創造性育成は極めて重要性を増していることから、関連事業への協賛等に理解を求めていく。

今年度事業計画の重点事項は次のとおりとする。

- (1) 創立 110 周年記念式典を着実に実施する。
- (2) 創立 110 周年を記念して実施する「戦後日本のイノベーション 100 選」について、第 1 回の発表を行う。
- (3) 青少年の創造性開発育成に係る諸事業を一層推進していくとともに、これら事業への協賛について企業等の理解を求めていく。

2. 恩賜発明賞・恩賜記念賞の贈呈

皇室より拝受する御下賜金の趣旨に沿い、全国発明表彰においては、最も優秀な発明をした発明者に恩賜発明賞を、また、全日本学生児童発明くふう展においては、最も優秀な作品の創作者に恩賜記念賞をそれぞれ贈呈する。

3. 発明奨励振興事業

(1) 全国発明表彰

我が国における優れた発明、考案又は意匠の創作並びにそれらの実施及び奨励等に関し、特に顕著な功績があると認められる者を顕彰することにより、科学技術の振興と産業の発展を図る。

また、第 2 表彰区分（21 世紀発明賞、21 世紀発明奨励賞）について、平成 16 年度の創設から 10 年が経過することを機として見直しを行う。

(2) 地方発明表彰

地方自治体をはじめ関係団体の協力を得て、地域における連携機関との共催により、各地方における優れた発明、考案又は意匠の創作並びにそれらの実施及び奨励等に関し、特に功績があると認められる者を顕彰することにより、地方における科

学技術の振興と産業の発展を図る。

(3) 「戦後日本のイノベーション 100 選」の選定

戦後日本で成長を遂げ、我が国産業経済の発展に大きく寄与したイノベーションの選定に関し、選定委員会及び選定小委員会による審議を踏まえ、第1回の発表を行う。また、我が国イノベーションの創出に資するアーカイブの構築に向け当該選定イノベーションの解説文等関連情報を専用ホームページに掲載し、広く公衆の学習の参考に供する。本選定は100選を目標に、引き続き候補案件の選定に関わる検討・審議を行う。

4. 青少年創造性開発育成事業

次代を担う青少年の科学技術に対する夢を育み、創造性豊かな人間形成を図るための諸事業を実施する。また、同事業について広く産業界からの事業協賛を募り、同事業の更なる充実を図る。

(1) 全日本学生児童発明くふう展

小学生から高校生に至る児童生徒に、発明くふうの楽しさを体得させるとともに、その優れた発明くふう作品を顕彰することにより、創造性豊かな人間形成を図る。

また、世界知的所有権機関（W I P O : 国連の専門機関）の協力を得て、同展の優秀作品にW I P O 賞を贈呈する。

(2) 未来の科学の夢絵画展

全国の園児や小・中学校及び外国人学校の児童生徒に、未来の科学に関する夢を絵画として表現させるとともに、その優れた作品を顕彰することにより、科学的な探究心と創造力の伸長を図る。また、同絵画展の作品を紹介する Web サイトに、新たに英語版を追加し、広く世界に発信していく。

(3) 少年少女発明クラブ

地方自治体及び関係団体の協力の下、全国各地の「少年少女発明クラブ」の拡充を図る。

また、同クラブ指導員の資質向上と指導員同士の交流・情報交換を目的に、少年少女発明クラブ全国会議及び地域ブロック別・都道府県別の研修会を開催する。

更に、同クラブにおいて長年指導を行ってきた方々の表彰を行う。

(4) 地域活性化アイデア創作活動事業

地方自治体等と連携し、地域社会が抱える課題の解決策について子供たち自らが考え、そのアイデアを創作作品（新たな特産物の提案、地域の PR 作品製作等）として発表することにより、子供たちの地域社会への積極的な参加と創意工夫活動の充実を図る。

(5) 全国少年少女チャレンジ創造コンテスト事業

全国の少年少女を対象にコンテスト課題を設定し、作品をチームで共同作成し、優秀チームを顕彰することにより、ものづくりの楽しさ、チームワークの大切さを

体験するとともに、柔軟なアイデアや豊かな発想力の伸長を図る。本年度は引き続き「からくりパフォーマンスカー」を課題として実施する。

(6) 東京都児童生徒発明くふう展

東京都における児童生徒の発明くふう作品を顕彰することにより、科学的な思考の育成と創造性の開発を図る。

(7) 青少年創造性開発育成海外交流

海外で開催される発明工夫展等に全日本学生児童発明くふう展、全国少年少女チャレンジ創造コンテスト、また、今年度から新たに未来の科学夢絵画展において優秀な成績を収めた青少年を中心とする日本代表団を派遣する。

また、各国の発明奨励機関で組織する発明奨励国際フォーラム（IFIP）に参加し、国際的な連携強化を図るとともに、青少年の交流等について意見交換を行う。

(8) 発明の日、科学技術週間協賛事業

発明の日、科学技術週間の協賛事業として科学技術の普及・振興並びに知的財産権制度の周知に関する行事を行う。

(9) 青少年創造性開発育成委員会の開催

青少年を対象にした創造性開発育成活動の拡充・強化の諸方策等について審議すべく、学識経験者及び当協会役職員による委員会を開催する。

5. 知的財産権制度普及等事業

(1) 海外における知的財産権侵害問題の解決に意欲を有する企業・団体が業種横断的に集まった「国際知的財産保護フォーラム」の活動に参加することにより、民間関係者の知識の共有化及び官民の情報交換を促進し、模倣品対策のレベルアップを図る。

(2) 知的財産創造の奨励と知的財産保護・活用の国際的普及を図るため、世界知的所有権機関を始めとする世界の知的財産関係機関との協力・連携を一層推進する。

6. 地域機関との相互連携

(1) 当協会と類似の事業を行う地域の機関と連携し、発明の奨励、青少年等の創造性開発、知的財産権制度の普及啓発等の事業を国内の各地域で推進するとともに、地域の機関と相互に連携・協力関係を構築するための体制強化を図る。

(2) 全国発明振興会議

発明奨励に係る諸施策の推進、知的財産権制度の普及等を通じて我が国科学技術の振興と産業の発展を図るため、県等地方自治体の発明奨励・知的財産権管理者、

地域の連携機関及び当協会代表者による全国発明振興会議を開催する。

- (3) 各地域の連携機関が地域の拠点として実施する、発明の奨励、知的財産権制度の普及啓発等の諸事業に協力する。
- (4) 地域連携に係る諸方策を検討するため、地域の連携機関の代表者等による会議及びブロック会議等を開催する。

7. 関係省庁への協力

- (1) 叙勲・褒章並びに科学技術分野の文部科学大臣表彰制度において候補者の調査・推薦に努める。
- (2) 産業財産権制度関係功労者表彰制度及び産業財産権制度活用優良企業等表彰制度において候補者の調査・推薦に努める。

8. 創立 110 周年記念式典の開催

当協会創立 110 周年記念式典及び記念祝賀会を東京都内において開催する。

9. 幹事制度

当協会を支える全国規模の人的ネットワークとして幹事会を組織・運営し、当協会事業の一層の充実を図る。

10. 東京発明推進協議会

東京都内における発明奨励事業及び少年少女発明クラブ事業等の一層の推進を図るため、東京発明推進協議会において所要の検討を行う。

11. 公益事業の広報活動

当協会が行う各種公益事業について掲載する機関紙「月報はつめい」を配付するとともにホームページにおいて広報活動を行う。

12. 業務の合理化

環境変化に対応するため、組織及び業務の見直しを行うとともに、事務の的確かつ効率的な処理に努める。

収 支 予 算 書

平成26年4月1日から平成27年3月31日まで

(単位:千円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減
I 一般正味財産増減の部			
[1] 経常増減の部			
1. 経常収益			
(1) 御 下 賜 金	50	50	0
(2) 受 取 会 費	34,120	34,560	△ 440
(3) 事 業 収 益	3,654	3,538	116
① 発 明 奨 励 振 興 事 業 収 益	(3,654)	(3,538)	(116)
(4) 受 取 補 助 金 等	27,113	41,161	△ 14,048
① J K A 補 助 金	(27,113)	(41,161)	(△ 14,048)
(5) 雑 収 益	100	100	0
(6) 指 定 正 味 財 産 からの振替額	273,268	270,268	3,000
経 常 収 益 計	338,305	349,677	△ 11,372
2. 経常費用			
(1) 事 業 費	311,158	328,084	△ 16,926
① 発 明 奨 励 振 興 事 業 費	(191,948)	(200,028)	(△ 8,080)
② 事 業 人 件 費	(97,037)	(101,081)	(△ 4,044)
③ 事 業 事 務 費	(22,173)	(26,975)	(△ 4,802)
(2) 管 理 費	30,895	21,561	9,334
① 人 件 費	(8,514)	(4,850)	(3,664)
② 事 務 費	(22,381)	(16,711)	(5,670)
経 常 費 用 計	342,053	349,645	△ 7,592
当 期 経 常 増 減 額	△ 3,748	32	△ 3,780
[2] 経常外増減の部			
(1) 経 常 外 収 益	0	0	0
(2) 経 常 外 費 用	0	0	0
当 期 経 常 外 増 減 額	0	0	0
当 期 一 般 正 味 財 産 増 減 額	△ 3,748	32	△ 3,780
一 般 正 味 財 産 期 首 残 高	6,219	6,187	32
一 般 正 味 財 産 期 末 残 高	2,471	6,219	△ 3,748
II 指定正味財産増減の部			
(1) 受 取 寄 付 金	273,268	270,268	3,000
① 資 金 寄 付 ・ 協 賛 金	(273,268)	(270,268)	(3,000)
(2) 一 般 正 味 財 産 への振替額	△ 273,268	△ 270,268	△ 3,000
当 期 指 定 正 味 財 産 増 減 額	0	0	0
指 定 正 味 財 産 期 首 残 高	0	0	0
指 定 正 味 財 産 期 末 残 高	0	0	0
III 正味財産期末残高			
	2,471	6,219	△ 3,748

(説明資料)

収 支 予 算 書 (資金ベース)

平成26年4月1日から平成27年3月31日まで

(単位:千円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
(1)御 下 賜 金	50	50	0
(2)会 費 収 入	34,120	34,560	△ 440
(3)事 業 収 入	3,654	3,538	116
① 発明奨励振興事業収入	(3,654)	(3,538)	(116)
(4)補 助 金 等 収 入	27,113	41,161	△ 14,048
① J K A 補 助 金 収 入	(27,113)	(41,161)	(△ 14,048)
(5)寄 付 金・協 賛 金 収 入	273,268	270,268	3,000
① 資 金 寄 付・協 賛 金 収 入	(104,000)	(105,000)	(△ 1,000)
② 特 定 寄 付 収 入	(169,268)	(165,268)	(4,000)
(6)雑 収 入	100	100	0
事業活動収入計	338,305	349,677	△ 11,372
2. 事業活動支出			
(1)事業費支出	307,708	324,252	△ 16,544
① 発明奨励振興事業支出	(191,948)	(200,028)	(△ 8,080)
② 事業人件費	(97,037)	(101,081)	(△ 4,044)
③ 事業事務費	(18,723)	(23,143)	(△ 4,420)
(2)管理費支出	29,845	20,893	8,952
① 人 件 費	(8,514)	(4,850)	(3,664)
② 事 務 費	(21,331)	(16,043)	(5,288)
事業活動支出計	337,553	345,145	△ 7,592
事業活動収支差額	752	4,532	△ 3,780
II 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入			
投資活動収入計	0	0	0
2. 投資活動支出			
投資活動支出計	0	0	0
投資活動収支差額	0	0	0
当期収支差額	752	4,532	△ 3,780
前期繰越収支差額	10,719	6,187	4,532
次期繰越収支差額	11,471	10,719	752

資金調達及び設備投資の見込みについて

(平成 26 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日まで)

(1) 資金調達の見込みについて

当期中における借入れの予定はありません。

(2) 設備投資の見込みについて

当期中における重要な設備投資（除却又は売却を含む）の予定はありません。